

垣ノ島遺跡と大船遺跡

(函館市教育委員会生涯学習部文化財課 兼 世界遺産登録推進室)

ユネスコ世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産となっている函館市の太平洋岸にある南茅部地域の垣ノ島遺跡と大船遺跡についてご紹介します。

垣ノ島遺跡は、縄文時代早期(約9千年前)から後期(約3千年前)の6千年間にわたる定住を示す大規模な集落遺跡です。約7千年前の温暖な縄文海進期には、竪穴建物跡の床面から漁網に使われた石の錘が多数出土し、活発な漁労活動を示しています。同じ頃、居住空間と離れた場所に亡くなった人を葬った墓域が存在し、この時期には居住域と墓域が分離していることを示す貴重な遺跡です。一方で、約5千年前から4千年前にかけて造られた国内最大級の盛土遺構は必見です。



大船遺跡は、縄文時代前期(約5千5百年前)から中期末(約4千年前)にかけて営まれた100軒以上の竪穴建物跡の中には大型のものも多く、長期間定住していたことを示しています。集落では貯蔵域や墓域、さらに「送り場」と考えられる祭祀遺構の盛土遺構があり、複雑な集落構造を示しています。また、クジラやオットセイ、マグロ、サケ、貝類など、多くの水産資源を利用する一方、多数のクリの実や建材などにクリ材が利用されていたことから、人とクリとの深い関係が窺えます。



◀ 垣ノ島遺跡 墓域に副葬

されていた足形付土版

大船遺跡 大型の竪穴住居 ▶

跡の様子

JOMON COLUMN



HOKKAIDO JOMONCLUB NEWSLETTER

CONTENTS

- P1 巻頭あいさつ
- P2 世界遺産委員会ライブ視聴会の様子
- P3 北の縄文道民会議 理事一覧
- P4 縄文世界遺産コラム 編集後記

巻頭あいさつ

これからの縄文世界遺産



一般財団法人道南歴史文化振興財団  
アドバイザー 阿部 千春

南茅部町教育委員会、函館市教育委員会で大船遺跡や垣ノ島遺跡の調査や保存に従事。民間活動団体の育成にも取り組む。中空土偶の国宝指定を機に設置された「函館市縄文文化交流センター」の初代館長を務め、平成27年から道庁の縄文世界遺産推進室に勤務。

令和3年7月27日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、コロナ禍のためオンラインで開催された第44回世界遺産委員会において、念願の世界文化遺産に登録されました。

この機会に、縄文遺跡群が世界遺産に登録された意義について考えてみたいと思います。

私たちが暮らす日本列島は、極めて特殊な環境にあります。それは、太平洋プレート、ユーラシアプレートなど4つのプレート活動で列島が形成されたことに起因しています。

プレートとは地表から約100キロの厚さの岩盤で、現在も年間数センチで移動しています。そしてこれが日本列島の希にみる生物多様性の源になっています。なぜなら、これらのプレート活動により、陸では高い山から低い盆地、海では浅い前浜から深い海溝まで、高低差がある地形が形成されたからです。

陸の生物にとっては高度が、海の生物には深度が、その生息域を規定します。つまり、島嶼環境という狭い条件でありながら、縦方向に幅のある地形が形成されたことで多様な動植物が生息できるようになったわけです。

縄文文化は、この生物多様性に富んだ自然の恵みにより誕生し存続しました。しかし、

このプレート活動は、地震や火山の噴火等の大規模な自然災害をも引き起こします。これまで積み上げてきた生活や命さえもが一瞬で失われるのです。

一万年という時のなかで、こうした経験を何度も経てきたことでしょうか。それが、日本列島に住む私たちの自然観として定着したと考えています。つまり、人間は自然の一部であり、自然に生かされているという感覚です。

それを如実に示したのが、3.11の東日本大震災でした。この時、メディアから流れる映像を見て、世界の人々は驚愕したといいます。普通は暴動になってもおかしくない状況で、東北の人々は怒ることなく、整然と行動していたからです。

この縄文時代から繋いできた自然に対する姿勢や畏敬の念は、SDGsなど地球環境の保全に取り組む国際社会にとっても重要な価値観になることでしょうか。設定した数値目標を達成しようとする前に、自然との向き合い方を見つめ直すことも大切だからです。

未来の社会に向けて、北海道からこの縄文の価値観を発信することこそが、これからの縄文世界遺産の役割なのかもしれません。

イベントのご報告

第44回全国育樹祭に出展しました！

10月10日(日)に北海きたえーる(札幌市豊平区)で開催された第44回全国育樹祭式典会場でブースを出展し、北海道庁縄文世界遺産推進室とともに、育樹祭式典に出席された方や近隣市民の皆様へ「北海道・北東北の縄文遺跡群」をPRしました！

「世界遺産のニュースを見て興味を持ちました」「地元には遺跡があるとは知らなくてびっくり」と足を止める方も多く、改めて世界遺産となり注目度が高まっていることを実感しました。これからも、イベントを通じて縄文遺跡群の魅力をたっぷり伝えていきます。



▲ 北の縄文ブースには、式典に招待された小中学生を始め、幅広い年代の方にお越しいただきました。



○知人から「函館みやげ」「縄文サンド」「土偶クッキー」「かつクッキー」を頂いた。縄文三昧。「縄文バーガー」は話のみで、残念ながら賞味叶わず。

今、道内の世界文化遺産の縄文遺跡では、遺跡ガイド、講演会、ワークショップなどの各種イベントが活発に繰り広げられ、新型コロナウイルス収束後を見据えて観光事業者によるモニターツアーも実施されています。「世界の縄文」となった「北海道・北東北の縄文遺跡群」を守り、国内外にその価値や情報を発信していく新たな取り組みが、いよいよ、船出しました。私ども編集局一同は、これからも「縄文パワー」全開で頑張って参ります。(T.H)

○世界遺産誕生の瞬間に当事者として立ち会うことができ、実に素晴らしい経験でした。(N.Y)

○世界遺産登録から3ヶ月、ようやく遺跡を見学できました。写真も撮れて満足です。(U.A)

編集  
後記

令和3年7月27日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録される瞬間を見届け、世界遺産委員会のライブ視聴会が開催され、会場には当会から堀達也会長・横内龍三副代表をはじめとする役員15名のほか、道からは鈴木知事や倉本教育長、道議会の小畑議長や市橋副議長など総勢26名が集まりました。イベントはオンライン配信もされ、北海道初の世界文化遺産登録の瞬間を多くの方と見届け、喜びを分かち合うことが出来ました。



▲ 登録決定後の集合写真

▼ 縄文グッズも応援に駆けつけてくれました！



この日、縄文遺跡群の審議は3件目。午後6時30分から始まった世界遺産委員会では、1件目、2件目と順調に審議が進み、緊張感の増すなか、ついにその時が訪れました。「ただいま、北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産に登録されました！」歓喜のアナウンスと共に、会場内は拍手で包まれました。世界遺産登録を目指して四半世紀、道内初の**世界文化遺産**の誕生です。



▲ 縄文の審議中 緊張続きです



▲ 悲願達成！ 場内の熱気が一気に高まります



◀ 世界遺産登録を記念して、縄文遺跡群ガイド本3,000冊を当会から北海道の子どもたちへ寄贈しました  
(右から、倉本教育長、鈴木知事、堀代表、浜名理事)

▼ ライブ視聴会終盤、くす玉割りで喜びも一入です！北海道にとって縄文が、地域の新しい切り口として発展するよう祈念いたしました。

(右から、堀代表、鈴木知事、小畑議長、市橋副議長、志賀谷縄文議員連盟幹事長)

登録に立ち会った北海道・鈴木知事は、「人類の宝として認められた『縄文』の価値を、国内外に向けて積極的に発信していく。今後とも、皆様と連携して取り組んでいきたい」と語りました。北の縄文道民会議・堀代表は「長年の夢が現実となり、本当に嬉しい。今後は、世界遺産に登録された縄文遺跡群を守り、応援していくために、着実な一歩を踏み出していきたい。」と話しました。



### 北の縄文道民会議 事務局長 戎谷 侑男

「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されるや否や、観光地としても、遺跡の注目度が一気に高まりました。アフターコロナには更に増加するであろう来訪者への対応として、本業の中央バス観光事業推進本部では、バスガイド向けの現地研修や、旅行商品企画担当者をターゲットにした縄文周遊ツアーなど、これからのに向けた取組を進めています。他方、遺跡のある市や町でも、受入体制づくりや地域の盛り上げに余念がありません。

今夏から今秋にかけて蒔いた「縄文を楽しむ」種がどのように地域で芽吹くのか、今から楽しみです。

### 北の縄文道民会議 幹事・事務局一覧

令和2年8月役員会で選任された、北の縄文道民会議の幹事、事務局及び監事の皆様をご紹介します  
(敬称略・五十音順)

#### <幹事>

阿部 千春、石岡 麻理子、右代 啓視、甲谷 恵、工藤 義衛、越田 賢一郎、小室 順住、嵯峨 直恆、佐藤 博幸、砂川 敏文、高橋 毅、角田 隆志、坪井 睦美、鶴井 亨、豊田 宏良、長沢 秀行、長沼 孝、永谷 幸人、西野 亨、福田 裕二、茂呂 剛伸、矢野 嘉一、山口 由美、横山 浩二

#### <事務局>

檜森 聖一(総合事務局長)、戎谷 侑男(事務局長)、谷 紘道(事務局次長)、森影 依(東京支部長)

#### <監事>

小林 良輔

※ 北の縄文 No.17 において代表・副代表・理事をご紹介します。